

多言語翻訳技術の高度化

①実施概要

多言語翻訳技術について、現状の逐次翻訳に加えて、AIによる実用レベルの「同時通訳」を実現するための研究開発を実施し、その成果を大阪・関西万博に実装・活用することにより、「言葉の壁」から解放された万博体験を実現する。

(実装例)

- ・来場者や万博スタッフ等が活用できる万博版自動翻訳アプリを提供。
- ・万博に係るセミナー、ツアー、会議等において、自動翻訳を実施。

(実施主体) 未来社会ショーケース事業出展者等を想定

(実施期間) 全会期中及び開催前後期間を想定



②今後の実施方針

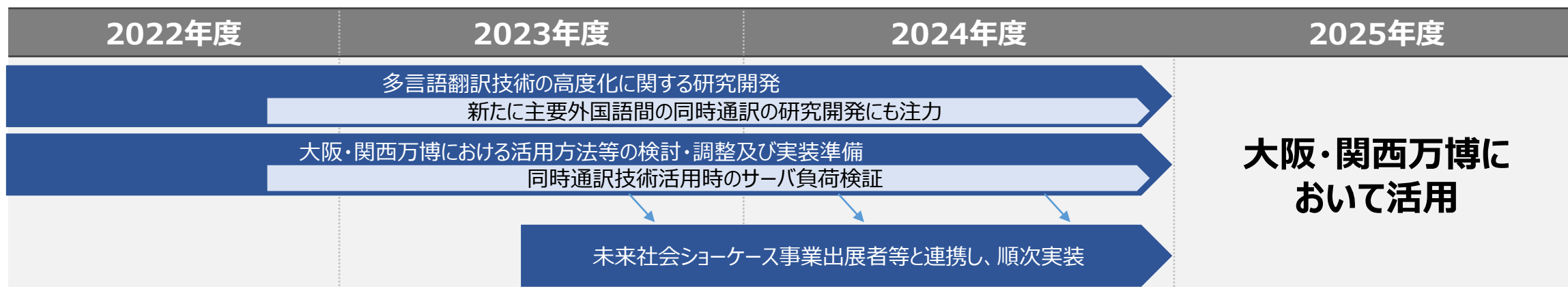
- ・多言語翻訳技術の高度化に関する研究開発を実施。
(新たに主要外国語間の同時通訳技術の研究開発にも注力。)
- ・大阪・関西万博における活用方法等の検討・調整及び実装準備(同時通訳技術活用時のサーバ負荷検証等)を実施。
- ・未来社会ショーケース事業出展者等と連携し、万博プレイベント等への実装を検討。

③予算

令和4年度第2次補正予算額：2,770百万円

令和4年度予算額：1,270百万円

④工程表



Beyond 5G ready ショーケースの実現

①実施概要

2030年頃に実用化を目指している次世代移動通信システム「Beyond 5G」について、2025年までの先行的な研究成果等を「Beyond 5G ready ショーケース」として世界に向けて展示・実証し、Beyond 5Gの早期実現とグローバル展開を加速させる。

(実施主体) 総務省・民間事業者等

(実施場所) 会場内 (メッセ)

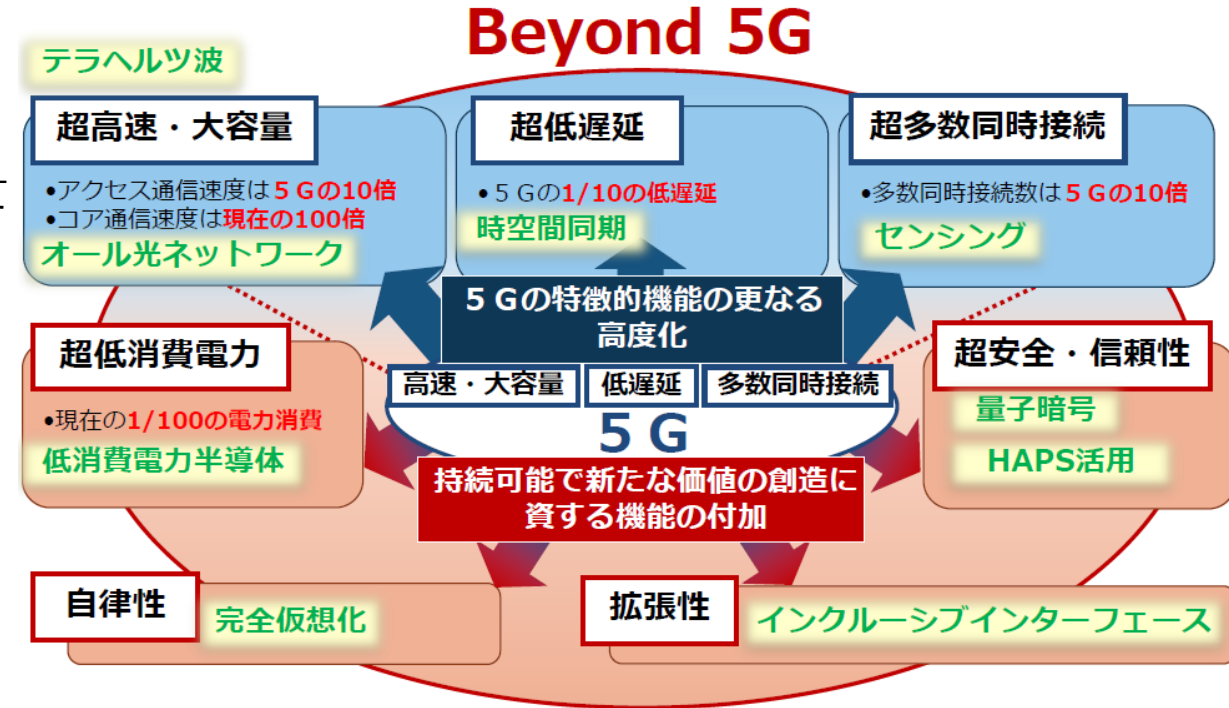
(実施期間) テーマウィーク (1週間程度)

②今後の実施方針

Beyond 5G関連技術の研究開発に取り組んでいる事業者とともに、2025年頃に早期実証可能な技術について、万博会場内での展示・実証に向けた計画を策定する。

③予算

—



④工程表

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
Beyond 5G ready ショーケース 構想の検討	展示・実証計画の策定	展示・実証内容の設計・制作	大阪・関西万博において Beyond 5G ready ショーケースの実現

地域データの可視化によるデータ連携・データ利活用の推進

①実施概要

- ・都市・住宅・環境・交通・ヘルスケア・食など全国各地の魅力を表すローカルデータや万博で得られるデータ、各国の地域の特徴を示すデータを、万博会場やバーチャル会場において可視化する。
- ・国内外の来場者に対し、グラフを通じたデータ交流のブースを設置し、来場者がグラフの作成や並び替えなどを通じてデータから地域の特徴を説明する、データ利活用の体験コーナーを設ける。
- ・万博開催に向けた機運醸成のため、会場となる大阪・関西エリアや自らの居住地域の特徴について、地域経済等に関するデータから理解を深める教育コンテンツを作成し、教育機関等へのデータ利活用の普及活動を実施する。
- ・万博終了後は、集積したデータを活用し、地方創生の担い手による消費活動の分析や地域観光施策の立案等を促すほか、万博前後の地域の社会経済活動の変化を可視化する取組を行う。

（実施主体）内閣府地方創生推進室、システムベンダー、データ可視化事業者

データ連携先の地方公共団体、経済データおよびEBPMの有識者

（実施場所）会場内：メッセ、催事場、FLE、テーマ事業館 会場外：バーチャル会場

（実施期間）開催前後期間を含む全会期中

②今後の実施方針

- ・可視化手法・会場の検討
- ・データ可視化システムの開発
- ・データ・ブース展示内容の検討
- ・教育コンテンツの作成



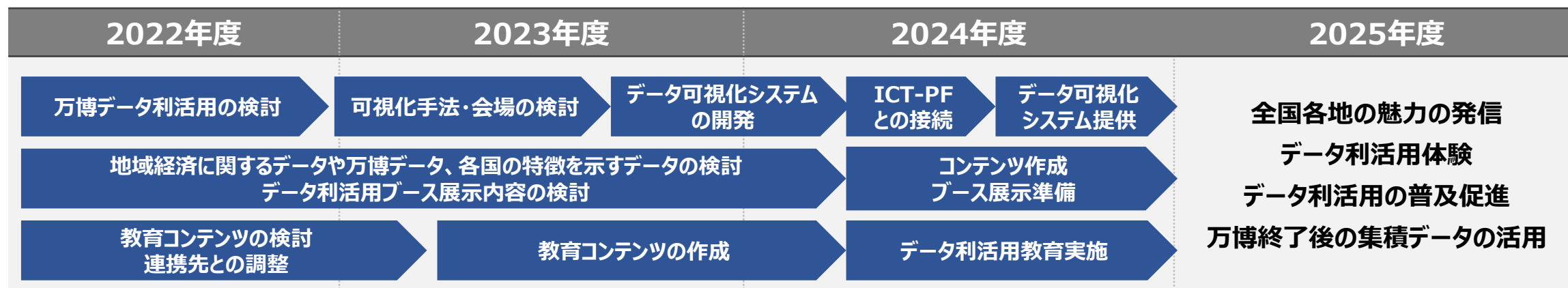
③予算

令和4年度第2次補正予算額：589百万円の内数

令和5年度概算決定額：108百万円の内数

https://www.cao.go.jp/yosan/soshiki/r05/yosan_gai_r05.pdf

④工程表



デジタル田園都市国家構想に関連する デジタル実装モデルの海外発信・展開

①実施概要

- ・官民が連携して、デジタルの力を活用して地域の個性を活かしながら社会課題解決と魅力向上を図り、成長のエンジンへと転換する「デジタル田園都市国家構想」のモデルとなる取組を大阪・関西万博会場内外で発信し、少子高齢化など諸外国にも共通する社会課題の解決のロールモデルを示すとともに、持続可能な我が国経済社会の姿を発信する。
- ・これに向けて、年末に策定予定のデジタル田園都市国家構想総合戦略に基づき、同構想の実現を通じて地方が目指す将来像をイメージしやすいビジョンの類型を提示し、その実現に向けた取組を促すこと等を通じ、デジタル実装モデルの事例を積み上げ、全国津々浦々への展開を図る。

（実施主体）関係自治体、関係企業

（実施場所）会場内外

（実施期間）全会期中

②今後の実施方針

- ・デジタル技術の活用による地域づくりなどのデジタル実装モデルの事例を積み上げる。
- ・大阪・関西万博会場内外での発信・展開について検討する。

③予算

—

④工程表

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
デジタル実装モデルの事例の積み上げ			大阪・関西万博会場内外 で発信・展開
大阪・関西万博会場内外での発信・展開の検討			

デジタルツインを活用した次世代エンタメ・サービス

①実施概要

空間情報のデジタル化や空間情報が流通する仕組み（[空間ID・3次元空間情報基盤・スマートビル](#)等）の整備等を通じてデジタルツインを構築し、「リモート・アバターとしての万博/大阪・関西への訪問・観光」や「XRを用いたコンサート・ライブ、キャラクターを投影してのゲーム等の次世代のエンターテインメント」、「配送ロボットや警備ロボット、ドローン等を活用した完全無人化したサービス」等の、リアル・サイバー両空間を組み合わせたユースケースを創出する。

※具体的なユースケースの内容は検討を進める中で変更の可能性あり。

（実施主体）民間企業等

（実施場所）検討中

（実施期間）検討中



②今後の実施方針

2022年から開発に着手した空間ID・3次元空間情報基盤について2023年から実証を開始。さらに、2023年から、新たに別の分野においても、IPAに設置したDADCで設計したアーキテクチャの実装のため、NEDOにおいて、研究開発・実証事業を開始予定。

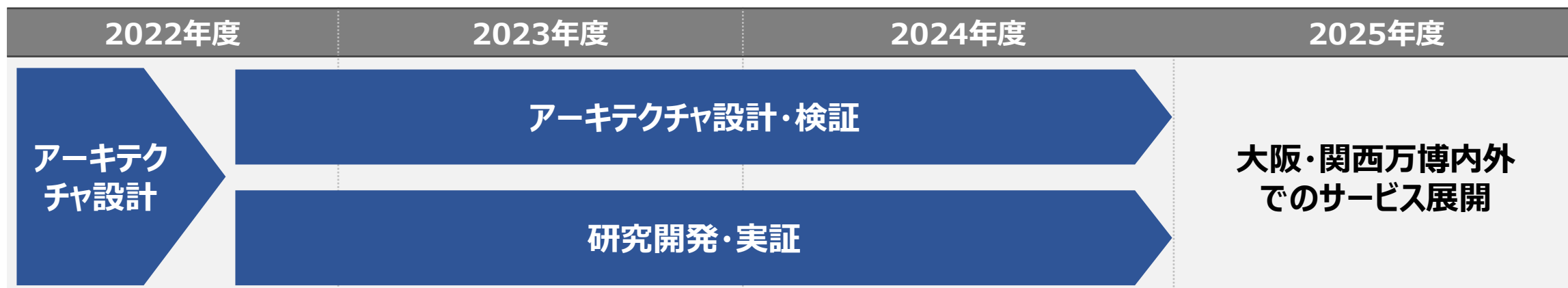
③予算

（産業DXのためのデジタルインフラ整備事業）

令和5年度概算決定額：2,400百万円

https://www.meti.go.jp/main/yosan/yosan_fy2023/pr/ip/sangi_13.pdf

④工程表



量子技術の社会実装に向けた情報発信

①実施概要

量子・AI等の先端テクノロジーの社会実装・産業化に向けて、国内外において、政府や産業界からの投資が集まっており、今後数年間は、スタートアップ等、新たなプレーヤーも参入し、量子コンピュータのみならずアプリケーション・サービス開発等が活発化していくと見込まれている。

そこで、国立研究開発法人産業技術総合研究所に創設する量子・AI融合技術ビジネス開発グローバル拠点の主導の下、万博期間中に量子技術の社会実装に向けた理解促進のための情報発信イベントを開催する。

（実施主体）国立研究開発法人産業技術総合研究所

（実施場所）会場外を想定

（実施期間）開催期間中を想定

②今後の実施方針

量子技術の社会実装に向けた理解促進のための情報発信イベントとして効果的なものとなるよう、国立研究開発法人産業技術総合研究所を含む関係機関との調整などを行う。

③予算

—

④工程表

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
イベント内容の検討 (関係機関との調整等)			大阪・関西万博に 連携して イベントを開催

大阪・関西万博と連携したeスポーツの発信

①実施概要

- ・海外と連携した国際大会及び国内全国大会の開催
- ・地元小中学生参加の大会やイベントの実施。
- ・eスポーツに関する展示（歴史パネルやトロフィー等）
- ・関西地域のサテライト施設と接続し、高齢者や障害者等とeスポーツを通じた交流。（サテライト施設は全国で設置も検討）
- ・有名eスポーツ選手やゲーム配信者等のインフルエンサーを招致し、会場内での参加型コミュニティ大会及び海外配信を想定

（実施主体）一般社団法人日本eスポーツ連合、大阪府eスポーツ連合

（実施場所）会場内（大催事場）

（実施期間）一部期間（2日間程度（1日目：国際大会、2日目AM：国内大会、PM：サテライト施設交流））



（※）2020年に開催された「V-RAGE」大会の様子

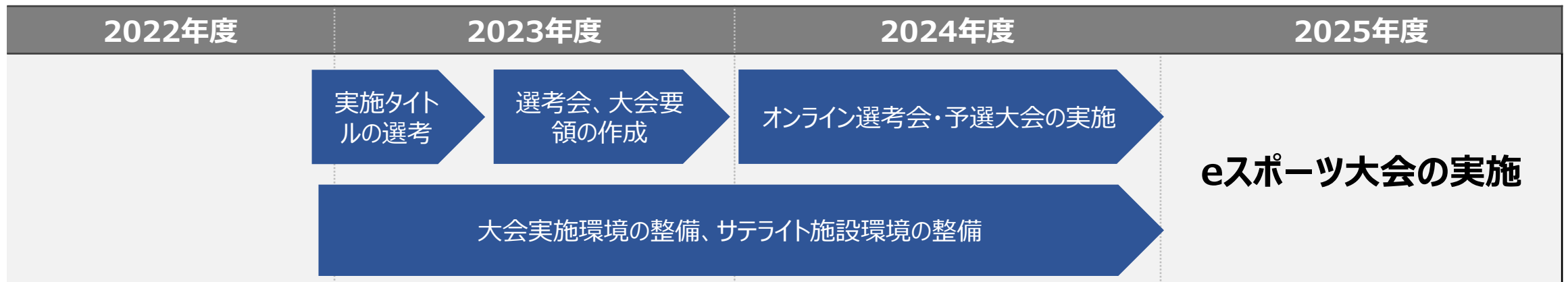
②今後の実施方針

- ・国際大会及び国内全国大会に用いるゲームタイトルの選定（メーカーとの交渉）
- ・選考会、予選大会等の要領作成
- ・会場環境の要件作成（レイアウト、設備等）
- ・関西地域におけるサテライト施設の設置について、各地域のeスポーツ連合支部との調整。

③予算

—

④工程表



デジタル学園祭&未来創造コンテスト（仮称）

①実施概要

令和3年度実施「デジタル関連部活支援の在り方に関する検討会」の提言を基に、民間企業、公益財団法人等が中心となって、中学生や高校生、高専生等を対象とした、テクノロジーを活用して社会課題を解決するコンテスト等を実施する。2023年から第1回大会を実施、2025年には大阪・関西万博と絡めた盛大なイベントにすることを想定し、バーチャルや展示エリアでの発表と催事場での表彰式などを実施予定。

大阪・関西万博への関心を高める事業として全国・全世界から子どもたちが参加するための活動を支援する取組も企画中。

（実施主体）一般社団法人デジタル人材共創連盟、公営財団法人大阪産業局、
一般社団法人 i-RooBO Network Forum、大阪市立美術館、
公益財団法人、日本ストリートダンススタジオ協会、株式会社博報堂 等

（実施場所）会場内（大阪パビリオン、催事場）、会場外（展示場、商業施設、大学、高校 等）

（実施期間）一部期間及び開催前後期間

②今後の実施方針

運営体制を万博に向けた大規模イベントに対応できるように改変していく。具体的には、実行委員会を設置し、2023年に第1回大会を実施する予定。

また、デジタル活動をサポートする協力企業を募集し、多くの中高生等が参加できる基盤を構築する。

③予算

—



④工程表

